

編集後記

■きのこの発生がほとんど見られなくなった12月には、2014年度に撮影したきのこの写真の整理と種名の確認、及び1月に催されるスライド会の準備が始まる。スライド会が終わると、ぼちぼち書き始めていた投稿文の作成と推敲が始まる。これが終わって投稿を済ませると、編集員としての投稿文のチェックが始まる。千葉菌には、いろいろな角度からきのこの関わっている人がいるんだなーと感心しつつ、時々読めない漢字が出てきて辞書を片手に、なるほど、なるほど、と頷く。この後、無事チェックも終了し、編集委員長が原稿を印刷屋に渡せば、あとは会報の完成を待つばかり。会報ができるころは春爛漫。春のきのこが顔を出して、今年のきのこ三昧の幕開けとなる(や) ■テロのニュースがまた入ってきた。博物館で多くの犠牲者がでた。先日、歴史的に貴重な収蔵品が破壊される映像を見たばかりだ。複雑な事情もあるのだろう、かけがえのないものを標的にしないでほしい(悦) ■いつもながらの編集後記ですが、ごめんなさい、編集作業、やってません。ここ数年同様、ほぼ一人でやっていただいたHさんごめんなさい。今回は、レイアウトにそって投稿いただいたのですが、横でみていると、やっぱりpdfになったあとの校正のやりとりが一月以上、深夜まで続いていました。●関係ありませんが、最近おもしろかった本は師匠を巡る本、再読も含め、「先生とわたし」(四方田犬彦)、「先生と私」(佐藤優)、「最終講義」(内田樹)、「僕の叔父さん網野善彦」(中沢新一)などが面白かったです。読んでいる最中、自分が今やっていることがいつはじまったのか、なんでこんなことを今やっているのか、など色々考えてしまいました(光) ■2014年度は「光る」話題が多かった。ソチオリンピックの金メダル、青色発光ダイオード、皆既月食、火球(隕石)、そしてSTAP細胞はできるとき光るの勘違い。数年前は光るクラゲでノーベル賞。近年は生物模倣の技術も盛んともなれば、いつかは発光きのこも出番がくるのかな。●暖冬だったけど、桜はほぼ平年並み。ちらほら咲いたら、今年も会報できあがり(公)

□本誌に加え、ホームページへのご意見やご感想などありましたらお聞かせください。またご要望も受け付けております(事務局)

千葉菌類談話会通信 31号 CHIBA MYCOLOGICAL CLUB BULLETIN NO. 31

2015年3月

発行 / 千葉菌類談話会

編集 / 千葉菌類談話会編集幹事

千葉菌類談話会事務局

〒260 - 8682 千葉市中央区青葉町955-2

千葉県立中央博物館 吹春気付

ホームページアドレス <http://homepage2.nifty.com/chibakin/>